

口永良部島

口永良部島は活火山の島で、その噴火により放出されたマグマから一部形成されました。

アクセス

口永良部島には空港がなく、フェリー太陽が運航するフェリーでのみ行くことができ、屋久島の宮之浦港から約一時間 40 分かかります。このフェリーは偶数日の午前と奇数日の午後に一日一便運行しており、口永良部島には 30 分から 40 分しか停まりません。このため、屋久島とこの島の間を往復するには少なくとも二日が必要です。車両や自転車は追加料金でフェリーに載せて運ぶことができます。その他の口永良部島での交通手段は限られています。

面積と人口

口永良部島は面積約 38 平方キロメートルで、外周は約 50 キロメートルです。2020 年十一月の時点での人口は 103 人で、世帯数は 64 でした。二十世紀初頭、この島の硫黄採掘ブームの最盛期に人口は最高で 1,000 人強に達しましたが、それ以降、労働人口が去り、出生率が低下するにつれて減少してきました。

ライフスタイル

島民は通常、独自に魚を捕り、シンプルな暮らしをしています。島には店が二つあります。酒屋と農協の店舗です。農協は月曜日から金曜日まで開店しており、在庫は日によって変わります。フェリーの運行が悪天候で停止した場合は、食料輸送が 7 日から 10 日届かないこともあります。多くの家庭は食料の備蓄用に複数の冷蔵庫や大型の冷凍庫を持っています。

島には病院や常駐のお医者さんはいません。地元の人々はこの島に四つある温泉の内の一つで身体に良いことで知られる寝待温泉に浸かります。

動植物

火山灰が豊作を生み出す、ミネラルに富んだ土壌を形成します。海洋生物にとって最適な生態系を作り出す冷たい海流と温かい海流の混ざり合いが、良い漁場と共にこの島を囲んでいます。700 種近くに及ぶ魚介類がこのエリアで確認され、また新種が発見され続けています。イセエビ (*Panulirus japonicus*) が地元の特産品です。大きなエラブオオコウモリ (*P. d. dasymallus*) はこの地域に固有の種で、世界においてこの島がこの種の北限生息地となっており、それが理由となって、この種は 1975 年に日本の天然記念物に指定されました。この焦げ茶色の胴体を持つコウモリ（オスには黄色の、メスには白色の輪が首の

周りにあります）は、体長約 25 センチで、音よりも視界を頼りにして飛びます。2015 年の新岳の噴火は、このコウモリが餌とする樹木の数を減少させ、その結果このコウモリは 2019 年に国内希少野生動植物種に指定されました。マルバサツキ (*Rhododendron eriocarpum*) は通常六月から七月にかけて山の峰々を覆いますが、2015 年の噴火がこの植物を壊滅させて以来、未だ咲いていません。

口永良部島は 2012 年に屋久島国立公園の一部に指定され、2016 年に屋久島・口永良部島 ユネスコエコパークの一部に指定されました。